



令和6年（2024年）6月26日

下関市長 前田 晋太郎 様

下関市環境審議会

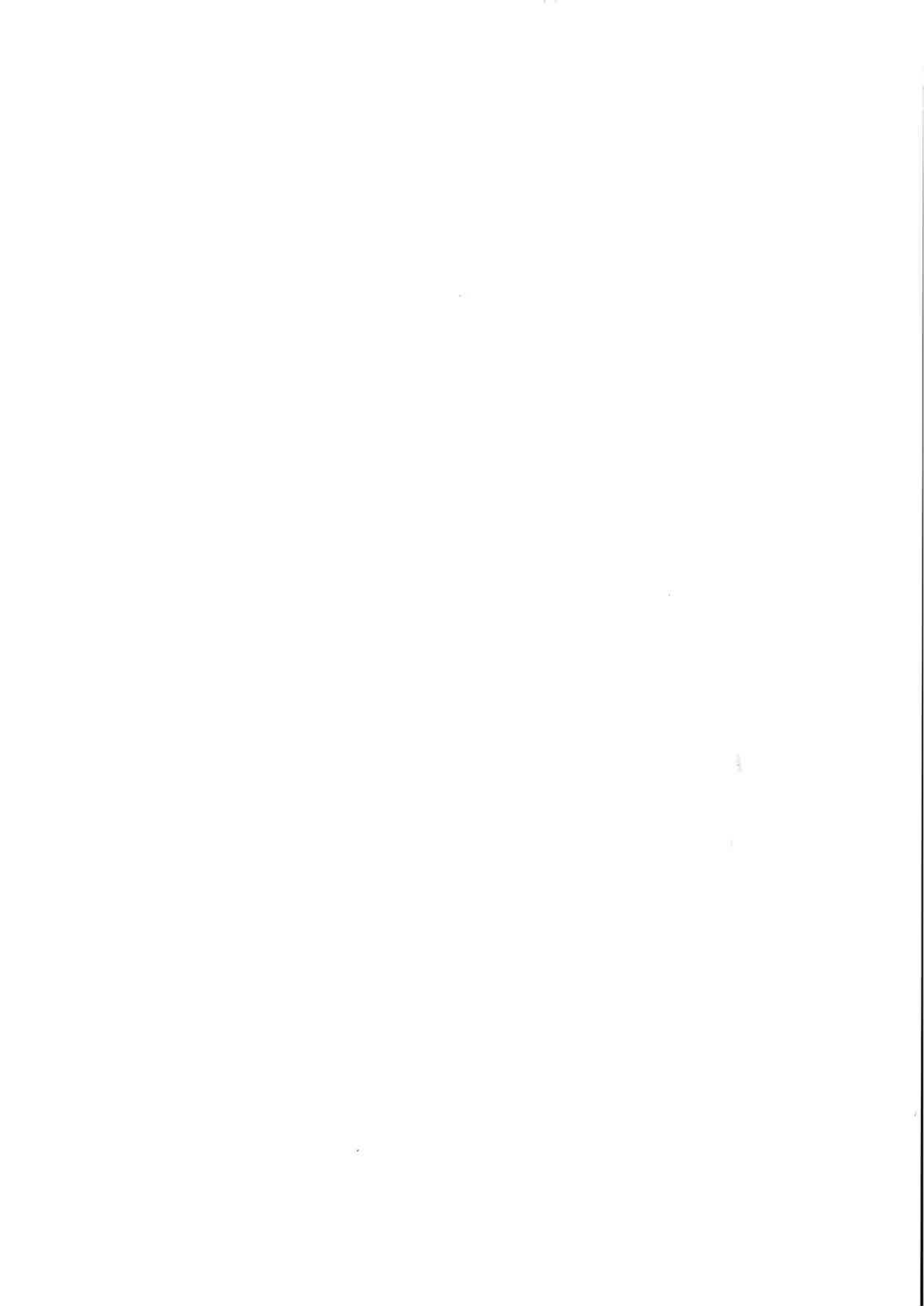
会長 荒井 修亮



（仮称）新白滝山風力発電事業環境影響評価方法書について（答申）

令和6年（2024年）4月25日付け下環政第829号で諮問のありました
「（仮称）新白滝山風力発電事業環境影響評価方法書について」につきまして、
環境に及ぼす影響に配慮された事業となるよう、委員それぞれの経験や考
えに基づき審議いたしました。

市長におかれましては、別紙事項を参考に山口県知事に意見書を提出される
よう答申いたします。



別紙

1 全般について

- (1) 風力発電機を選定する際は、騒音など環境影響の少ない機種を検討すること。
- (2) 本事業に伴う追加・継続的な環境影響に対する懸念の声が寄せられていることを理解され、環境影響評価手続きを通じて十分な科学的調査を行うこと。また、説明にあたっては、十分なコミュニケーションの機会と時間を取り、可能な限り分かりやすく丁寧な説明を行い、環境改変に伴う地域住民等の不安の低減に努められたい。
- (3) 環境影響評価の結果、新風力発電所の建設・稼働に伴い、自然環境や生活環境に著しい影響を及ぼす可能性が明らかになった場合は、事業規模の縮小・中止等も含めた環境保全措置等を検討し、事業計画に反映されたい。

2 個別的事項について

(1) 大気質について

工事の実施においては、工事等の車両の集中による大気質への影響を考慮し、工事等車両の時間的、空間的な分散に努めること。また、残土の輸送にあたっては、乾燥等により土砂等が飛散しないように適切な処置を検討すること。

(2) 騒音について

ア 資材の搬入路のための道路の拡幅を住宅等に近接する区域で行うなど、住宅等から離隔が確保できない場所で建設機械を用いる可能性がある場合は、適切な環境影響評価の実施を検討すること。

イ 調査地点より近接した住居等が複数あるため、風力発電所の稼働に伴う騒音については、予測対象地区ごとに騒音寄与値が最大となる住居を選定するなど、適切な評価を実施すること。

(3) 水質について

ア 対象事業実施区域から流れ出す各支川を対象に、水質調査・影響予測を行い、下流域に流れ出す前に水質への影響を防ぐこと。

イ 水質の調査地点は集水域下流部と定めているが、豊北峽をはじめ、上流域にも環境資源や人と自然のふれあい活動の場が含まれる。改変により上流域に影響が出る可能性が生じる場合、上流域でも適切な調査を行い、環境影響が回避・低減されているか検討すること。

(4) 人と自然との触れ合いの活動の場について

現在の白滝山等の利用状況は、既設発電機の影響を受けている可能性があるため、地元有識者や地域の自然愛好家・活動団体等へのヒアリング等を通じて、現在顕在化している利用に加え、既設発電機がない状況での利用の可能性も考慮し、実行可能な範囲での回避、低減が行われているかの確認について検討すること。